

## 介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名 株式会社木下福祉アカデミー

研修事業の名称 介護職員初任者研修講座 (通信)

1 職務の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 多様なサービスの理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修課程の構成と関連性を理解し、全体像をイメージする。</li> <li>・介護保険におけるサービスについて、居宅及び施設でのサービス内容を理解するとともに、介護保険外のサービスについても合わせて理解する。</li> </ul>
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職が働く現場の仕事内容や環境を理解する。</li> <li>・ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでの一連の流れと、チームアプローチ、多職種や介護保険外のサービスを含めた地域社会資源との連携を理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護者が実際に働く現場やその様子を視聴覚教材で紹介し、具体的なイメージを持つ。</li> <li>・介護において活用できる地域資源についてグループで考察する。</li> </ul>
合計	6	

2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 人権と尊厳を支える介護	6 時間	1.5 時間	4.5 時間	1~8	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 尊厳とは何か、利用者にとっての尊厳と、それを傷つける行動とその理由を考えることでその概念を理解する。</li> <li>・ ICF、QOL、ノーマライゼーションの考え方を理解する。</li> <li>・ 身体拘束禁止・高齢者虐待防止法・高齢者の養護者支援について理解する。</li> <li>・ 個人の権利を守る制度について、その概要を理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体拘束にはどのようなものがあるか、なぜいけないのかをグループで検討し、理解する。</li> </ul> <p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 尊厳とは何か、QOL・ノーマライゼーションの考え方の理解、高齢者虐待防止について理解する</li> </ul>
② 自立に向けた介護	3 時間	0 時間	3 時間	9~14	<p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護保険制度下における、自立に向けた介護の重要性と意義、介護予防や重度化予防の視点・必要性、介護予防のあり方について理解する</li> </ul>
合計	9	1.5	7.5		

3 介護の基本 (6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	2時間	0時間	なし	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職に求められる専門性とその理念について理解し、利用者の個別性・主体性の重視について理解する。</li> <li>・地域包括ケアの重要性や、多職種との連携の必要性について理解する。</li> </ul>
② 介護職の職業倫理	1時間	1時間	0時間	なし	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における倫理観とその意義、介護職の社会的責任について理解する。</li> <li>・プライバシーの保護・尊重と、情報共有について理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討を通してグループで意見交換を行い、介護における職業倫理について考察する。</li> </ul>
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5時間	0時間	1.5時間	15～17	<p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における安全を確保するための事故への備え、感染症の予防と対策、事故対応の原則について理解する。</li> </ul>
④ 介護職の安全	1.5時間	0時間	1.5時間	18～20	<p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の心身の健康、安全の保持について理解する。</li> </ul>
合計	6	3	3		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護保険制度	3時間	1時間	2時間	21～ 24	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度が創設された社会的背景とその意義を理解する。</li> <li>・介護保険制度の仕組みや財源、行政の役割を理解する。</li> </ul> <p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度創設の背景、介護保険制度の仕組みについて理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループにて討論を行い、介護保険認定の流れや財源、介護サービスを利用する際の相談先などを理解する。</li> </ul>
② 医療との連携とリハビリテーション	3時間	1時間	2時間	25～ 29	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療と介護の役割・連携について理解する。</li> <li>・医行為とその他の行為の違い、訪問看護職員が行える医行為、介護職員が行える医行為について理解する。</li> <li>・自立支援・QOL向上におけるリハビリテーションの重要性を、リハビリテーションの理念とともに理解する。</li> </ul> <p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員が行える医行為、リハビリテーションの理念について理解する。</li> </ul>
③ 障害福祉制度およびその他制度	3時間	0時間	3時間	30～ 34	<p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の概念、障害福祉制度の理念を理解する。</li> <li>・障害福祉制度の仕組みやサービス利用の流れを理解する。</li> <li>・成年後見制度、日常生活自立支援事業等について理解する。</li> </ul>
合計	9	2	7		

5 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護におけるコミュニケーション	3時間	1.5時間	1.5時間	35～ 37	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの目的・意義・役割について理解する。</li> <li>・利用者を知るための、共感・受容などのコミュニケーションの基本を理解する。</li> <li>・利用者と家族への関わり方や信頼関係の構築、メンタルケアなど対人援助について理解する。</li> <li>・コミュニケーション能力の異なる利用者に対してのコミュニケーション方法と留意点を理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニングワークを実践し、コミュニケーション技術の基本を習得する。</li> <li>・グループにて事例検討を行い、介護職における対人援助の重要性について理解する。</li> </ul> <p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非言語コミュニケーションの理解のほか、能力の異なる利用者別のコミュニケーション方法と留意点について理解する。</li> </ul>
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	1.5時間	1.5時間	38～ 40	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場における記録の目的と意識を理解し、記録の重要性・種類を理解する。</li> <li>・利用者を観察するポイントや記録の書き方、留意点を理解する。</li> <li>・チームケアの必要性やチームにおけるコミュニケーションの取り方、ケアカンファレンスの重要性を理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材を使用し、記録の種類や観察ポイント、記録の書き方についての理解を深める。</li> <li>・グループにて事例検討を行い、チームにおけるコミュニケーション方法やカンファレンスの重要性について理解する。</li> </ul> <p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場における記録の目的と意識を理解し、記録の重要性・種類を理解する。</li> <li>・チームケアの必要性やケアカンファレンスの重要性を理解する。</li> </ul>
合計	6	3	3		

6 老化の理解 (6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 老化に伴うこころとからだの 変化と日常	3時間	2時間	1時間	41～ 42	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老化に伴う心身の変化の特徴を理解し、日常生活への影響を理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークを行い、老化がもたらす変化・日常生活で影響が出る場面について考察する。</li> </ul> <p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老化に伴う心身の変化の特徴を理解する。</li> </ul>
② 高齢者と健康	3時間	1時間	2時間	43～ 46	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に多い疾患や生活習慣病、老化に伴う疾患を理解する。</li> <li>・疾患別での日常生活の留意点や介護者としての観察するポイント、対応方法について理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例紹介を行い、介護者として観察するポイントについて理解する。</li> </ul> <p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に多い疾患や生活習慣病、老化に伴う疾患を理解する。</li> </ul>
合計	6	3	3		

7 認知症の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 認知症を取り巻く状況	1時間	0時間	1時間	47～ 48	〈通信課題概要〉 ・認知症の人との関わりについて理解する。
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	1時間	1時間	49～ 50	〈講義内容〉 ・認知症とは何かを学び、症状や間違いやすい状態について理解する。 ・原因疾患と病態を理解し、疾患別でケアの注意点を理解する。 ・認知症を予防する為の健康管理について理解する。 〈通信課題概要〉 ・認知症の症状、認知症の人の健康管理について理解する。
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2時間	2時間	0時間	なし	〈講義内容〉 ・中核症状と周辺症状を理解するとともに認知症の方の気持ちについて理解する。 ・症状に応じた介護者の対応やコミュニケーション方法について理解する。 ・認知症の進行に合わせたケアの重要性について理解する。 〈演習内容〉 ・グループワークにて、症状が出た時の本人の気持ちを考察する。 ・事例に対しロールプレイを行い、認知症の方への対応やコミュニケーション方法について理解する。
④ 家族への支援	1時間	0時間	1時間	51～ 52	〈通信課題概要〉 ・家族を取り巻く環境や心身の変化について理解する。 ・家族との関わり方、家族介護者へのエンパワーメントについて理解する。
合計	6	3	3		

8 障害の理解 (3時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 障害の基礎的理解	1時間	0.5時間	0.5時間	53	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の概念、ICFの考え方について理解する。</li> <li>・障害者福祉の基本理念『ノーマライゼーション』を理解し、“個人の尊厳”“QOLの向上”を付け加えた現在の障害福祉についても合わせて理解する。</li> </ul> <p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICFの考え方について理解する。</li> </ul>
② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	1時間	1時間	0時間	なし	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害・知的障害・精神障害の分類を理解し、各障害の中から代表的な障害を理解する。</li> <li>・障害が人に与える心理状態や行動、社会活動における影響を理解する。</li> <li>・『ノーマライゼーション』の理念をふまえた基本的姿勢と介護の留意点を理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を活用しロールプレイを行い、障害があることでの心理変化や行動について理解する。</li> </ul>
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	0時間	1時間	54～ 55	<p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児・者を支える家族の心理や障害受容の過程、家族とのかかわり支援について理解する。</li> </ul>
合計	3	1.5	1.5		



9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）

基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	① 介護の基本的な考え方	4 時間	3 時間	1 時間	56～57	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実生活の中での場面を通じ、法的根拠に基づいた介護と基づかない介護を比較しながら、理論に基づいた介護・介護サービスの目的を理解する。</li> <li>・ 医療サービスと介護サービスに求められる役割や ICIDH と ICF の考え方の違い、QOL 向上の大切さを理解する。</li> </ul> <p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法的根拠に基づく介護、医療サービスと介護サービスの役割の違い、利用者主体の介護について理解する</li> </ul>
	② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3 時間	2 時間	1 時間	58～59	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記憶の働き、長期記憶と短期記憶の違いを確認し、記憶と加齢・学習について理解する。</li> <li>・ マズローの要求階層説を理解した上で老年期の生きがいや、喪失体験・人間関係・社会的役割などを確認する。</li> </ul> <p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老年期の生きがいや喪失体験・人間関係・社会的役割、障害への心理的反応について理解する。</li> </ul>
	③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	2 時間	1 時間	60～61	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的人体の構造と機能、それらをコントロールしている神経系のしくみを理解する。</li> <li>・ 体の状態を把握する為のバイタルサインの観察ポイントを理解する。</li> <li>・ 高齢者の健康を確認し、高齢者を一体的にとらえる介護とはどのようなものなのか理解する。</li> </ul> <p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的人体の構造と機能、バイタルサインについて理解する。</li> </ul>

生活支援技術の講義・演習	④ 生活と家事	6 時間	2 時間	4 時間	62～ 69	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に対する生活支援において、家事サービスを果たす役割の理解と留意点について学習。</li> <li>・家事サービスとして「身体介護」「生活援助」の内容理解と支援の為の基礎的知識を学習。</li> </ul> <p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活歴・生活習慣・残存能力・なじみの関係を使った、生活の再構築を行う家事サービス提供について理解する</li> <li>・代表的な家事援助について具体的内容を理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループにて討論を行い、介護保険のサービスとしての生活支援内容、衣服の取扱い表示について理解する。</li> </ul>
	⑤ 快適な居住環境整備と介護	4 時間	2 時間	2 時間	70 ～74	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な居住環境に関する基礎知識を理解する。</li> <li>・高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法を理解する。</li> </ul> <p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な居住環境、寝たきりや認知症高齢者に適した環境について理解する。</li> <li>・住居の安全と事故防止に向けた環境整備について理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討を行い、介護者として居住環境の注意点や観察するポイントについて理解する。</li> </ul>
	⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7 時間	7 時間	0 時間	なし	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整容の意味とその効果について確認し、衣服着脱の基本と留意点を理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師指導のもとグループに分かれ、健常な人の衣服着脱の動作を確認し身体状況に合わせた衣服着脱の技術を習得する。</li> </ul>

<p>⑦ 移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>12 時間</p>	<p>12 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p>なし</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動・移乗に関する基礎知識と身体状況に応じた介護技術（ボティメカニクスの基本原則）を理解する。</li> <li>・廃用症候群の定義や社会参加について理解する。</li> <li>・移乗・移動に関する用具について、その機能と活用法を理解する。</li> <li>・体位の種類について確認し、安楽な体位やそれに伴う用具の使用法を理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害者の誘導方法に関する技術について確認、習得する。</li> <li>・杖歩行の介助方法について確認・習得する。</li> <li>・ベッド上での体位交換の方法について確認・習得する。</li> <li>・ベッド、車いす間の移乗に関する技術について確認し、習得する。</li> <li>・車椅子を使用しての移動の介助方法について確認・習得する。</li> </ul>
<p>⑧ 食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>5 時間</p>	<p>5 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p>なし</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事に関する基礎知識（食事の意義・食事に関連したからだのしくみ・栄養素と食品の関係・食品の保存と安全性）を理解する。</li> <li>・食事環境・食事介助の技法・疾患と食事の関係を理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師指導のもとグループに分かれて、健康な人の食事動作を確認後、食事介助の技術を習得する。</li> <li>・食事介助後の口腔ケアをする側、される側を体験し技術を習得する。</li> </ul>

<p>⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7 時間	7 時間	0 時間	なし	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴と清潔が及ぼす影響を理解する。</li> <li>・入浴介助のポイント・入浴介助の注意事項を理解する。</li> <li>・さまざまな入浴用具と整容用具の活用法・ベッド上での部分浴や清拭について理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師指導のもとグループに分かれて、ベッド上での清拭方法・部分浴についての技術を習得する。</li> <li>・浴室での全身浴・洗体・洗髪の介助技術を確認・習得する</li> </ul>
<p>⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7 時間	7 時間	0 時間	なし	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄が及ぼす身体的・心理的・社会的側面と、尊厳の保持・自立支援との関わりを理解する。</li> <li>・爽快な排泄を阻害する要因と、安全で安心できるトイレ環境について理解する。</li> <li>・排泄用具・おむつの種類などの確認を行う。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師指導のもとグループに分かれて、ベッド上でのおむつ交換・Pトイレ・差し込み便器・尿器を使用した介護技術などを習得する。</li> </ul>
<p>⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	3 時間	3 時間	0 時間	なし	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠に関する基礎知識（体内時計、レム睡眠・ノンレム睡眠、寝室の環境）を理解する。</li> <li>・快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法・褥瘡予防について理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師指導のもとグループに分かれ、ベッドメイクを行い、リネン類の取り扱いについての技術を習得する。</li> <li>・睡眠環境を整えた後に安楽な姿勢などについての技術を習得する。</li> </ul>

	⑫ 死にゆく人に関する こころとからだのし くみと終末期介護	4 時間	1 時間	3 時間	75～ 80	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみを学習する。</li> <li>・ 死にゆく人のこころの過程と死の受容・精神的苦痛の種類と原因について理解する。</li> </ul> <p>〈通信課題概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 死にゆく人のこころの過程と死の受容・精神的苦痛の種類と原因、看取りにおける対応について理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシートを活用し、個人で死に対するイメージを考える。その後、グループでそれぞれが考えた根拠について、討論を行い、死に向き合う心理やグリーフケアについて理解する。</li> </ul>
生活 支援 技術 演習	⑬ 介護過程の基礎的理 解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護過程の基本的な流れとチームアプローチについて理解する。</li> <li>・ 介護計画書の読み方と作成方法を理解する。</li> </ul> <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事例を用いたグループワークを行い、介護計画の作成に実際に行ってみる。</li> </ul>			
	⑭ 総合生活支援技術演 習	7 時間	<p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事例ごとに設定された場面に対しグループにて適切な介助手順を考える。</li> <li>・ ロールプレイにて介護手順の実践を行い、介護技術を習得する。</li> </ul>			
実習		0 時間				
合計		75				

10 振り返り (4時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 振り返り	3時間	〈講義内容〉 ・研修全体の学習内容を振り返り、再確認を行う。 ・利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義を行い再確認する。 〈演習内容〉 ・グループワークを行い、自分の中の介護観を表出・言語化する。
② 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	1時間	〈講義内容〉 ・どんな介護提供者になりたいのか将来像を形成すると共にキャリア段位制度についての確認を行う。 ・継続的学習の重要性を理解しOJT、OFF-JTを具体的にイメージする。
合計	4	
全カリキュラム合計時間	130時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること